

郵便はがき



〒四二六-〇〇二五  
藤枝市藤枝四一七  
大慶寺 大場正昭  
Tel. 〇五四-六四一-二二九  
Fax 〇五四-六四四-六二六  
ohba@enmyozan.org

### しめ縄奉納は今年まで

久遠の松のしめ縄は、数十年前から毎年お会式前に水上地区の檀家さん、最近では、立正壮年会のご協力で製作し取り替えを行ってきました。

久遠の松は、現在でも成長を続け、幹も年々太くなっています。そのため、しめ縄を支えるロープが久遠の松に食い込むようになり、松の成長を妨げる状態になりつつあります。そこで、残念ながら、



本年度しめ縄奉納を終了することに致しました。長年に亘るご尽力に深く感謝申し上げます。

静岡市清水区の柴田ちる様、静岡市駿河区の南條一男様、五十嵐千穂美様、府中市の今井資久様から法話箋のお葉書代を頂戴致しました。ここに篤くお礼申し上げます、法話箋作りの資とさせていただきます。

別世帯の子供、お孫様等にも法話箋をお届け致します。申込は寺まで。

オリンピックの後に

今年の8月は何といってもオリンピック。更に例年の夏の甲子園もあり、早朝から深夜までテレビのチャンネル争いも忙しかったのではないか。

オリンピックが始まる前はそれほど熱くならなかったが、いざ始まってみると、熱心に日本選手を応援する自分がいた。

生活のすべてを競技に賭け、長年精進してきた選手。緊張感の中で一心に集中し、国を代表して試合に挑む姿は、見た者に感動と様々な示唆を与えてくれた。

試合後の日本選手のインタビューでは、スタッフや家族への感謝を述べる選手が多かった。

試合結果は選手的能力、努力だけで勝ち取れるものではない。家族の理解と環境作り、スタッフの献身的努力等、多くの人々のお陰で競技ができて、成績を残せることができるのだから、当事者の選手は、自然と心の底から感謝の言葉がでるのである。

一方、我々の生活は、アスリート選手と違

自然の  
恵みに  
感謝



い、毎日を極限状態に置くわけでもなく、特段の緊張感があるわけでもない。そんな毎日を過ごしていると「当たり前」な生活と思い込んでしまう。そして、「当たり前」だと一旦思い込んでしまうと、感謝の心は決して起こってこない。

しかし、一つ一つ事実を捉えてみれば、健康でいられること、自分の命が今ここにあること、多くの人々からの手助けや助言があること、そして多くの物のお陰で普通の生活、即ち「当たり前」な生活ができていくのだ。だから「当たり前」な生活を送れることにこそ感謝しなければならぬのだ。9月は秋の彼岸がある。

先祖、自然の恵み、多くの人や物に対する感謝の心を再確認する月にした。

家人に「4年後の東京では、何をライブで見たい」と聞かれた。「うーん、白井選手のクルクルかな」と答えた。ブラジルは無理だったが、東京ならチャンスがあるかもしれない。